

2019年(平成31年)3月期 第2四半期決算 主要な質問に対する回答

Q: 2018年第2四半期の実績について総括していただけますか？

A: 2018年第2四半期は、売上収益前年比増501億円(+11%)、調整後営業利益も前年比増191億円(+56%)となりました。売上収益の増加は、新車販売と、部品サービスを中心とするバリューチェーンの双方で売上が伸びたことによります。利益面も、新車販売物量の増加に加えて、部品サービスやレンタル・中古車などのバリューチェーン売上の伸張により、大幅な増益となりました。

財務面では、たな卸資産手持日数は、旺盛な需要に対応する為に在庫の補充を進めたことや季節変動要因に対応する為の生産積み増しを行ったこと、また日本各地での度重なる自然災害の影響を受けて物流が停滞したこと等が影響し、昨年度末比で13日分増えました。また、営業債務手持日数は、昨年度末比で16日短縮していますが、主として国内で取引先への支払方針を早期化した影響によるものです。この結果、キャッシュ・フローについても、営業キャッシュ・フローは468億円、フリーキャッシュ・フローは580億円、それぞれ支出超過になりましたが、前述のたな卸資産の増加や買掛債務の減少などが主として影響したことによるものです。

Q: 2018年度見通しについて総括していただけますか？

A: 2018年度の業績見通しは、第2四半期累計期間の実績を踏まえて、年度当初の見通しを変更しました。市場見通しは、全世界の油圧ショベル需要は前年度比4%増、マイニング機械需要は同10%増と前回の見通しを変えていませんが、当社の販売物量は増加する見込みです。当社としては、中期経営計画にも掲げている通り、バリューチェーンの深化を図り、経営効率を上げ、先進技術開発やIoT関連の研究開発を進め、これらの施策を遂行する為に必要な投資や間接費支出も、売上収益増加率とのバランスをとりながら進めて参ります。

Q: 建機の需要環境の見方についてもう少し詳しく教えてください

A: 当社は主力製品である油圧ショベルの世界需要は、2018年度は日本・ロシアCIS・中南米・中東・アフリカで減少すると見込みますが、中国・インド・北米等では増加とみており、その結果、全体で前年度比4%増加の22万9千台とみています。この需要規模は前年と比較すると増加率は下がるものの、2010年度の過去最高水準(23万台)のレベルに近づく見込みであり、販売物量もこれに伴い増加する見込みです。

Q: マイニング機械の需要環境と受注状況について教えてください

A: 当社として「マイニング機械」に区分する、100トン以上の超大型油圧ショベルと150トン以上のダンプトラックの2018年度需要については、前年度比約10%増加すると見込んでいます。

そのうち、比較的小型の100トンクラスの超大型油圧ショベルの需要は既に2015年度から増加してきており、引き続き高い需要水準が継続するとみています。

また、大規模な鉱山で使用されるケースの多い、比較的大型の200トンクラス以上の超大型ショベルと、150トン以上のダンプトラックについては、2017年度に増加傾向が顕著となり、2018年度も継続的に増加するものとみています。

これらの状況を反映して、当社の注力する比較的大型の超大型ショベルとダンプトラックについては、特に今年度初めから旺盛な引き合いを頂いており、その結果、第3四半期以降の当社売上見通しにおけるマイニング機械の受注残は、約8割まで進捗しています。